

2007年末には、どこの酪農地帯におじゃまして、飼料価格高騰による生産コスト高による大幅な所得減少で、年末の種々の代金支払いにも苦労し、大規模な経営も含めて、「年が越せない」との声が続出したが、2008年になっても、飼料価格高騰が収まらず、空前の酪農危機といわれる事態は更に悪化してきている。

(http://go.gob.jp/go/rkn0804から)

いま牛乳は・・・ (前)

前々号で、バターが入手できないというお菓子屋さんの嘆きを紹介し、生産の現場にも関心を寄せてほしいと書きました。で、自分でも少し勉強してみます。

上記は、ネットからの転載。右はけさの朝日新聞です。さらに下は、新聞「農民」(3月31日)の紙面です。一部を抜き書きしてみると、

“酪農家が苦境に立たされる一方

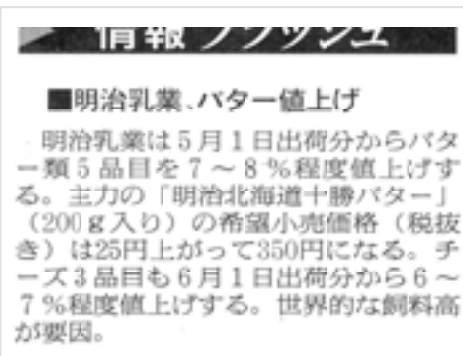
で、史上最高益をあげる業界最大手の明治乳業。もの言う労働者を差別し、非正規雇用や長時間労働を推し進め、コスト削減を口実にした安全対策の手抜き、そして酪農家を買いたたいた結果です。

明乳本社前で、農民連の白石淳一会長は、飼料や資材高騰のなかで、畜産、酪農家から毎日のように「畜産・酪農をやめようと思っている」という悲痛な声が寄せられていることを紹介。生産者乳価の値上げがわずか1キロ3円にとどまっている問題を指摘し、「せめて10円にあげろというのが農家の声だ。明乳は、利益を農民に還元し、食の安全への社会的責任を果たせ」と訴えました。

牛の世話を家族に任せ、牛の世話に明け暮る酪農家がマイクを握りました。北海道厚岸町の石沢元勝さんは「酪農家は365日、朝晩休まず搾乳しなければならぬが、この大変な仕事に誇りを持って



里のギャラリー ⑤



る」と発言。「低乳価のもとで、北海道の酪農家は8000戸をきってしまった。毎年3%ずつ減っている。酪農家がいなくなれば、メーカーも成り立たない」と告発しました。

群馬県高崎市の住谷輝彦さんは「息子が酪農を継いで、大きな借金をしながら続けている。乳価が3円上がったというが、30年間下がりがつづけてきたではないか」(以下略)

紙面がなくなったけど、もう少し紹介したいことがあるので、次号に。参考までに、下記。乳業メーカーの最大手は、空前の高利益を更新しつづけています。

明治乳業の決算 (単位:百万円)

	05年	06年	07年
売上	493,868	484,285	481,206
利益	14,530	15,239	18,271

